平成２９年度　いしかわ教育ウィーク　　主催　石川県教育委員会

小松教育事務所管内　タウンミーティング

１１月５日（日）川北町文化センター

子供たちの生きる力を育むつどい　in 南加賀
－意欲を高める取組や関わり方－

最近の教育を取り巻く環境は，家庭や地域社会の教育力の低下，子供たちの規範意識や公共心の欠如，児童生徒の学力低下など，様々な教育問題に直面しています。

こうした問題を解決していくためには，学校や教職員が一層の努力をすることはもちろん，**県民一人一人が改めて教育問題について真剣に考え，学校，家庭，地域社会が一体となって，子供たちの豊かな心の育成と確かな学力の向上に努めていくこと**が重要です。石川県では，教育について県民全体で考える気運を盛り上げる契機として，**１１月１日を「いしかわ教育の日」**また，教育の日にふさわしい取組を集中的に展開する期間として，**１１月１日から７日までを「いしかわ教育ウィーク」**と定める条例を平成１７年３月に制定しました。

さて，様々な教育問題の中で，「児童生徒の学力低下」に目を向けてみますと，国内外の学力調査の結果から，**「学ぶことと自分の人生や社会とのつながりを実感しながら，自らの能力を引き出し，学習したことを活用して，生活や社会の中で出会う課題の解決に主体的に生かしていく」**という面から見た学力には課題があることが分かっています。この課題克服に向けては，社会性の基礎ともなる**「自己有用感」**を高めることが一つの手立てになると考えます。

今回の小松教育事務所管内のタウンミーティングでは，現代の子供たちの現状と課題の把握，市町教育委員会の取組の発信，人財教育家，飯山晄朗氏による講演等を通して，学校，家庭，地域が子供たちとどのように向き合い接することが，**子供たちの意欲を高め生きる力を育むことになるのか**を，ご参加のみなさんとともに考えました。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・当日のプログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・

◇　開会挨拶　　石川県教育委員会小松教育事務所　所　長　　髙橋　正英

◇　基調報告　　**「児童生徒の意欲に係る現状と課題」～「自己有用感」をキーワードとして～**

石川県教育委員会小松教育事務所　指導主事　　北市　康徳

国内外の各種調査から，現在の子供たちの主に意欲面について報告しました。県内の９０％以上の小中学生は，「人の役に立ちたい」と思っています。「この意欲を未来に向けてどう育んでいくのか」という課題を共有しました。

◇　実践発表

『加賀市におけるロボレーブ（RoboRAVE）の取組」～主体的な学びの実現に向けて～

加賀市教育委員会　指導主事　可部谷　孝嗣

新学習指導要領実施に先駆け，加賀市は今年度から「プログラミング教育」を全小中学校で導入しています。ロボレーブの授業では，協力しながら試行錯誤を繰り返し，うまくいったときには跳び上がって喜ぶ子供たちの姿が見られました。第３回「ロボレーブ国際大会」では，６つの地域から４１５人が参加し交流します。（※大会は１１月１１日～１２日に実施されました。）

学ぶ意欲を持ち，見通しを持って粘り強く取り組む，まさに〝主体的に学ぶ〟子供たちを育む実践を発表していただきました。

「生徒による生徒のための小松市中学生サミット」

小松市教育委員会　指導主事　笠巻　昭

〝ネット利用の危険性〟について生徒自身が考えました。アンケート結果の分析から課題を明確にし，改善に向けて具体的な取組を提案しました。「サミット通信」の発行，「ネットを考える日」の取組，動画・スタンプの発表，パネルディスカッションの実施。自分たちで考え，意見を出し合い，学校や保護者を巻き込んで活動する中学生の姿が見られました。

主体的に活動する中学生の頼もしさと，黒子に徹し，生徒を支える大人の意識の大切さを改めて感じることができた実践でした。

◇　講　　演　「いまどきの子のやる気に火をつける メンタルトレーニング」

人財教育家・メンタルコーチ　　飯山　晄朗　氏

「９回裏，０－８からの大逆転はなぜ起こったのか？」

夏の高校野球，石川県大会決勝。球史に残る大逆転劇に，星稜高校のメンタルコーチとして関わった飯山先生。そのヒントは脳の使い方にあると言います。プラス思考の脳の使い方について，楽しく，そしてわかりやすくお話をしてくださいました。

「心の状態がパフォーマンスをつくる」「感情が思考と体調を決める」「正しいことではなく，楽しいことしか続かない」「ワクワクしながらチャレンジしたから成功した」「まずは動作・表情・言葉を変える」印象的な言葉が心に響きました。

９回裏，最後の攻撃に向かう星稜ナイン。「０－８で負けているのに負けている気がしない」笑顔でバッターボックスに立つ姿はまさに〝やる気〟に満ちていました。

「子供のやる気に火をつける」そのすばらしさ，可能性を感じることができました。

【飯山流　やる気をつくる法則】

☆ワクワクチャレンジ　☆思いよりも言葉を変える　☆自分のためより誰かのために

◇　意見交換・閉会

最後に，会場の皆様から感じたことやご意見等をいただき，家庭，地域，学校，それぞれの立場で何ができるのか，どのように連携を深めていけばよいのかをともに考えました。

★参加者からの意見・感想

○２市の実践発表が大変参考になりました。やる気に火をつける仕掛け、ついた火を燃え続けさせる手立て等々、まさに「黒子」に徹したスタッフの働きがあればこその成果と感服いたしました。

○以前ロボレーブ国際大会を見に行った時、他国のチームに積極的に対戦を求める外国チームの小学生を見かけました。対戦して勝った時だけ得点となる加点方式で、失敗しても減点されないルールがとても良いと思いました。「うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む」アメリカ人が多いことは、こんなことにも関係しているのかもしれません。学校の取組にも生かしていきたいです。

○小松市のサミットは地域ぐるみの健全育成の一つの方策として大変勉強になりました。子供たちがつながる手立てとして、自分の地域でも形を考えたいと思います。

○学校で生徒の自己有用感を育てるためには、教師は黒子に徹し、子供を信じて任せることが大切だと改めて感じました。飯山先生の話を聞いて、生徒の脳をプラス思考に変えるためには、まずは周囲の先生や大人が、プラスの言葉や動作、表情をいつも意識していきたいと思いました。ワクワクチャレンジ、誰かのために頑張れる自分でありたいと思います。

○ハンドボール部の集まりでは、ワクワクする、イキイキする、前向きな表情の大切さを伝えていきます。

○今日の「やる気をつくる法則」を意識して、子どもを伸ばしていこうと思います。いつも笑顔で明るく楽しいお母さんでいられるようにします。

○主体的という捉え。学習のみならず、生活、遊びにおいて、全てに共通して言える事だと感じます。本来人間（生れてきた赤ちゃん）は、希望や意欲に満ち溢れていると思います。それが育っていく環境により変わってくると考えると、幼少期からの関わり方、意欲の芽をつまない言葉のかけ方など、考えるべきことは多いなと思います。仕事柄、幼児と日々関わっているため、改めて立ち止まり、考える時間となりました。今まで色々な講演を聴いていますが、最高でした。最高の研修だったよと笑顔で帰宅します。すぐ実践です。